

事例発表者たちが考える／変化を生む“スパイス”とは？

「鶴岡ナリワイプロジェクト」
井東 敬子さん



「にしあわくらモビリティプロジェクト」
猪田 有弥さん



「みらいの学び創発ラボ」
小見まいこせん



敵を作らない

風当たりが強いことがある



地域力は「国語力」／言葉に敏感になる

→地域活動の中で、福祉専門職として心がけている

◇言葉を俯瞰的に
掴めるようにする。

◇福祉に携わる人は、
「言葉」選びが命。



例:福祉用語としての
「相談」「包括」
「中核」「共生」



例:事実への応答と、
感情への応答



学びを共にする

共通ビジョン、共通言語、仲間意識の醸成
大人の学びが子供の学びになる



行政に仲間を作る

田舎は行政の信用が強い



主体者を増やす

関係者の広がり当事者意識の高まり
参加者が主体になるようにする



センターのいないAKB48

誰がやってるかわからないけど
集団でやってる様に見える



「作法」を尊重し生かす／業界の「作法」を知る

→地域での活動のなかで、連携の「ハブ」として心掛けていること

基本作法は、

「安全と定時性」

「観察と記録」



◇モビリティ(交通事業)



◇福祉の現場仕事



まずは世に出す

さらなる課題の抽出、アップデート
地域ナイズして広げてもらう
不完全でも未完成でも議論の要素になる



約束を作った上で混ぜる

会社員 経営者etc...
広がりを持たせることができる



属人的にならない3人以上のコミュニティづくり

3人以上のコミュニティが
重要という理由...は？

例)「通所付添サポート事業」による
二人一組の誘い出し移動サービスのメリット

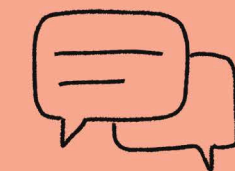


2名1組で行くと、
利用者が仮に一人でも、
その場が3人になり、
コミュニティがうまれる！

・関係性が属人化しないため、利用者
が仲間を誘いやすい。
・薄く広い関わりの方が、
長期的にみると維持・持続コストが
下がる。



先生の主体性の
引き出すことの難しさ



なかなか提案が通らない



主体的に
動く先生が生まれない



依存させない

自分がいないと回らない状況を作らない

苦勞話

